

みぬしじんじゃひがし

水主神社東遺跡 第12次調査 現地説明会資料

調査場所 城陽市寺田大畔
調査期間 令和元年5月下旬～令和2年2月末(予定)
調査機関 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

【はじめに】

水主神社東遺跡は城陽市西部、木津川右岸の沖積平野に位置します。国道24号拡幅事業に伴い、平成29年度から継続して発掘調査を実施しています。これまでの調査では、縄文土器や石器が出土していましたが今回の調査ではじめて縄文時代晩期の水辺を利用した遺構を検出しました。

【まとめ～縄文時代の遺跡と景観～】

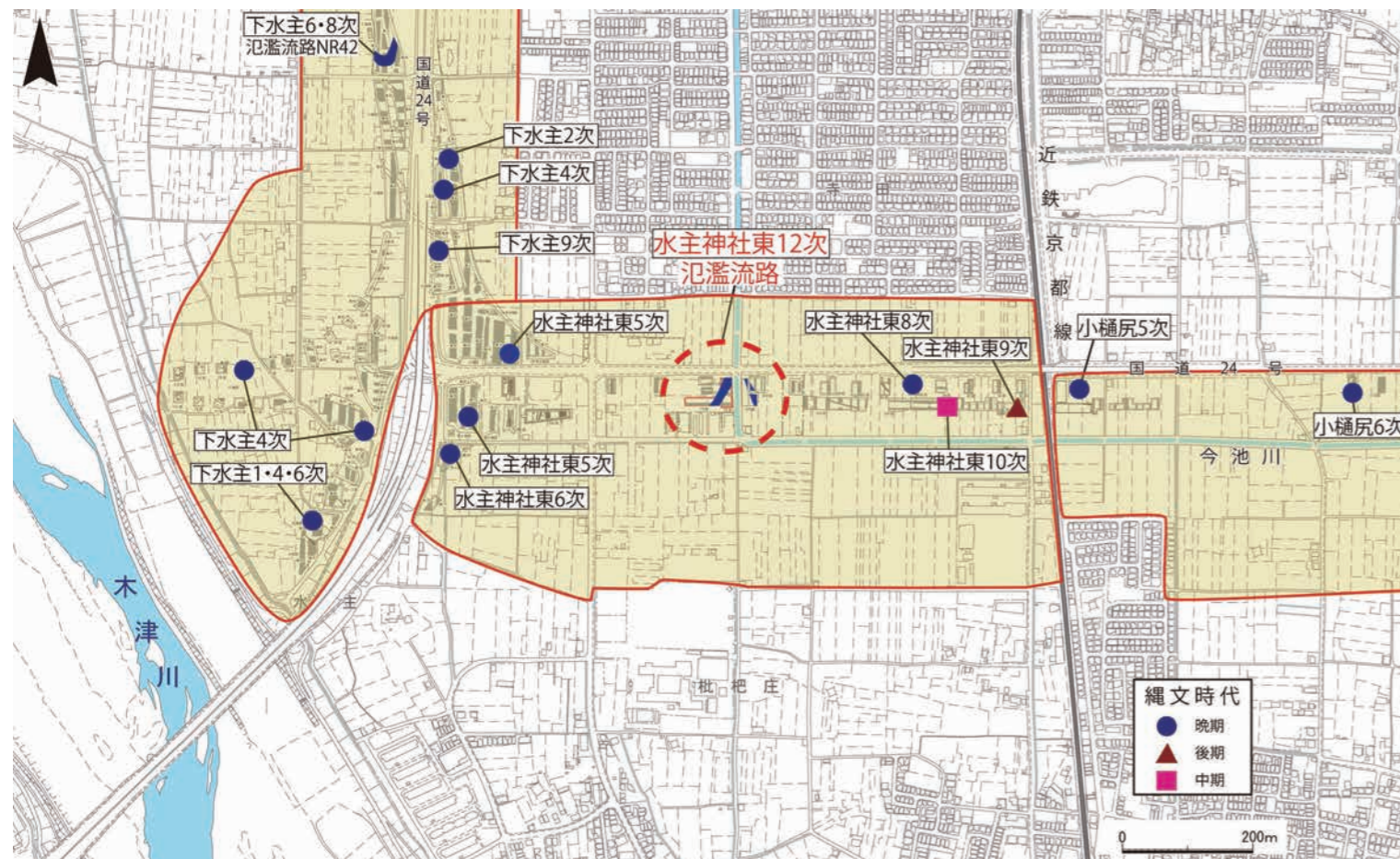
水主神社東遺跡が位置する城陽市周辺では、これまでに縄文時代後期～晩期の遺跡が見つかっています。東部の丘陵上では、森山遺跡で縄文時代後期の竪穴建物群が確認され、縄文時代のムラの様子がありました。また、木津川右岸の低地部では、水主神社東遺跡のほか、下水主遺跡や小樋尻遺跡などがあり、縄文時代後期～晩期に遺跡が大きくひろがることわかってきました。

今回検出した氾濫流路の木組み遺構と木道、杭列は、水辺を利用した縄文時代晩期の遺構です。水辺では、水を汲む以外にもクリヤトチ、イチイガシなどの周辺に生えていた木の実を食料として採集していたと考えられます。また、木組み遺構の周辺からは、石器の剥片、加工した木材片なども出土しました。水辺は当時の人々にとって食料採集や生産活動を行う生活場所の一部であったと考えられます。

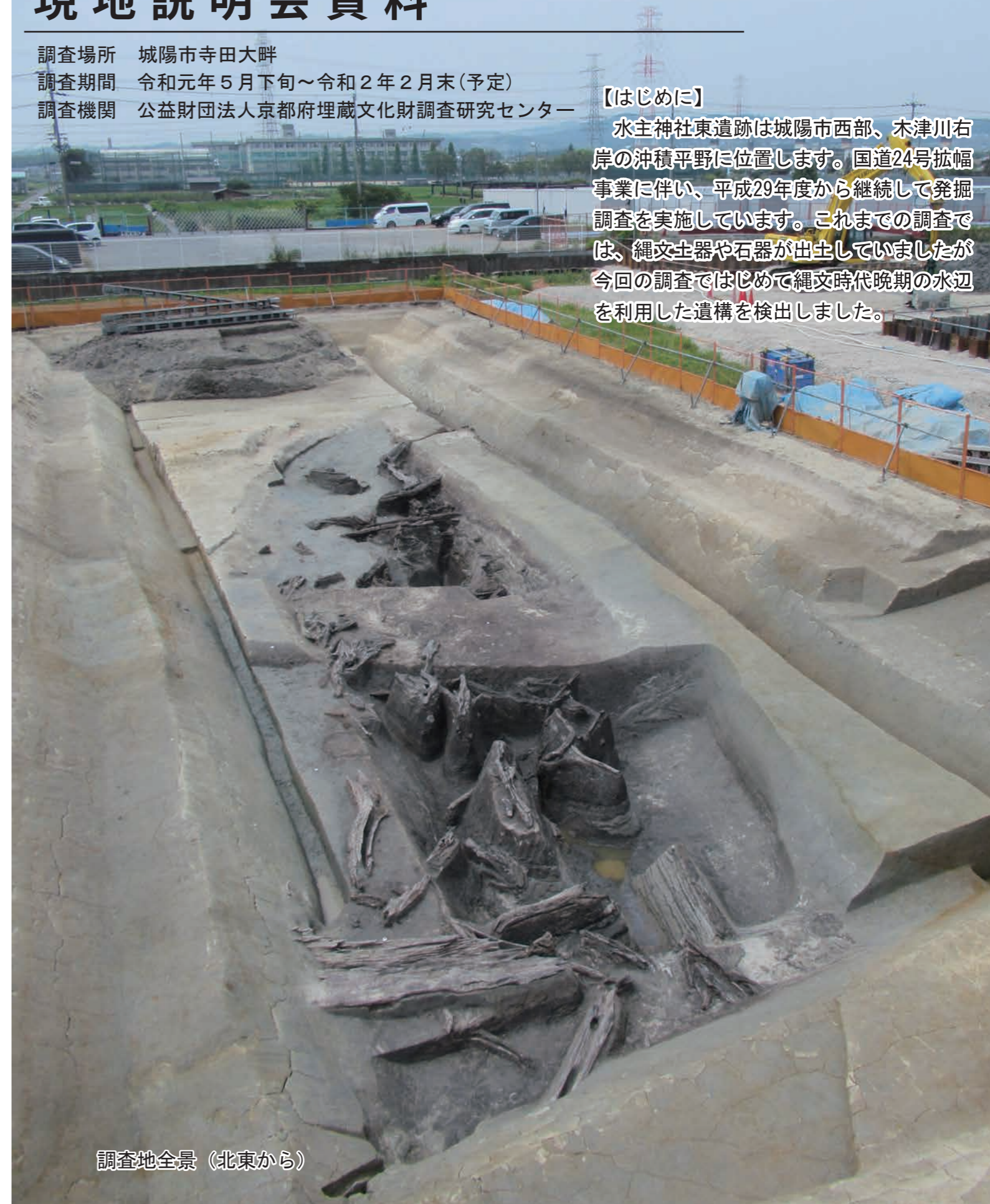
縄文時代晩期の木津川中流域では、低地部にも集落を営み、縄文時代の人々が周辺の森林や水辺の自然を巧みに利用して生活していたことがわかりました。

発掘調査に参加いただいた皆様、ご指導、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

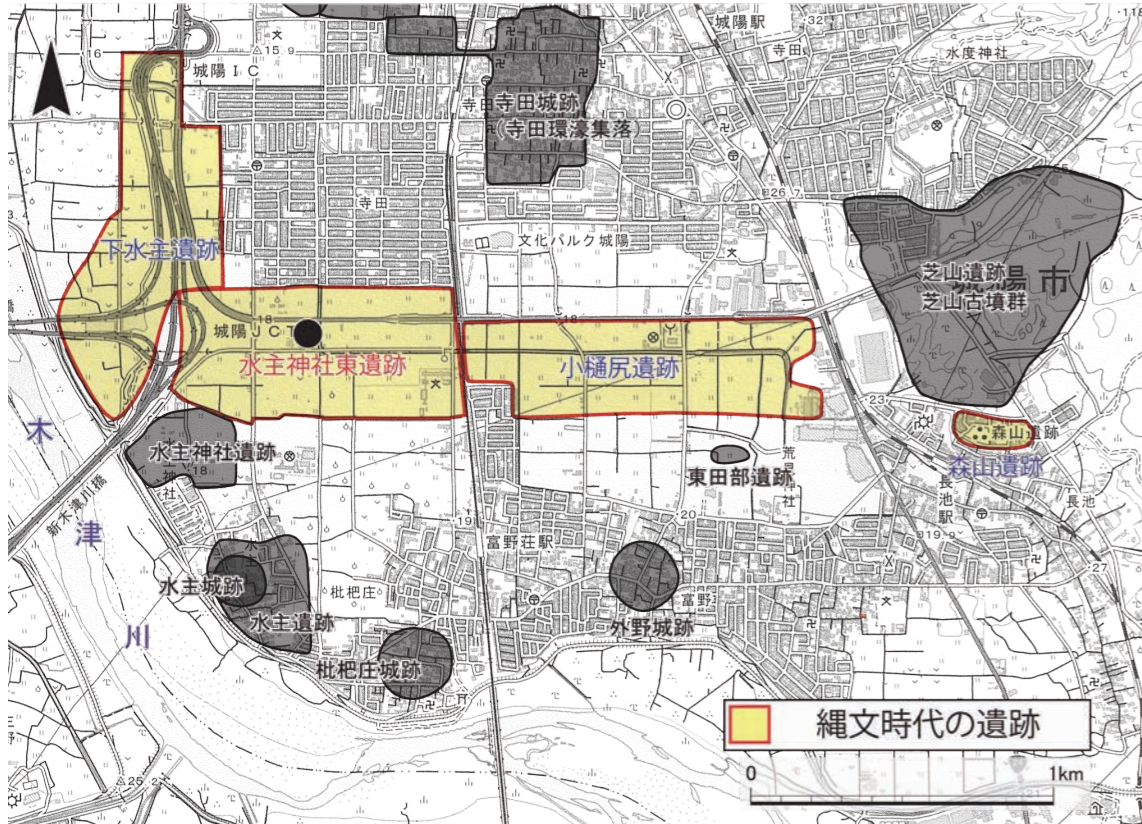
周辺の主な遺跡		
旧石器時代		
B.C.15000	草創期	
B.C.5000	早期	
B.C.3000	前期	
縄文時代	中期	横道遺跡
	後期	水主神社東遺跡 森山遺跡 下水主遺跡 小樋尻遺跡
	晩期	
B.C.400	弥生時代	芝ヶ原古墳
A.D.200	古墳時代	久津川車塚古墳 芭蕉塚古墳
A.D.600		
A.D.700	飛鳥時代	正道官衙遺跡 久世廃寺 平川廃寺
A.D.800	奈良時代	



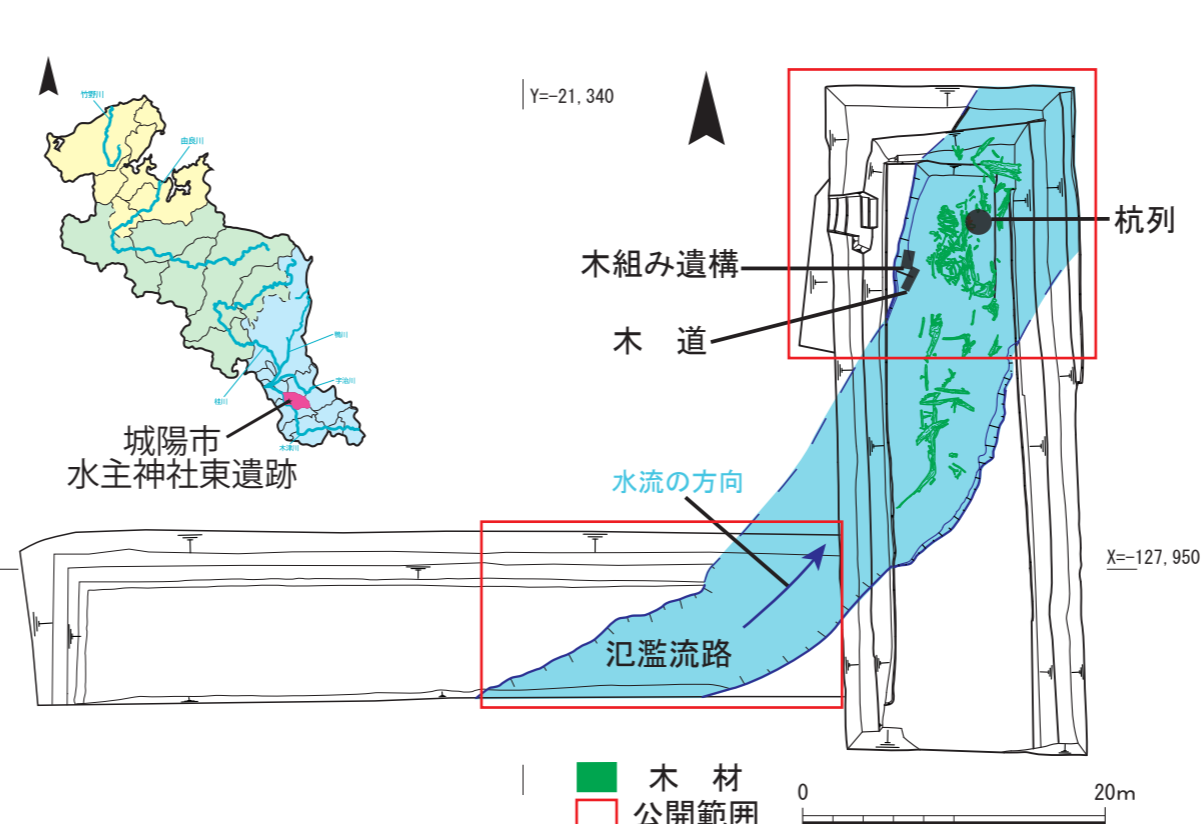
第3図 縄文時代の遺構・遺物が出土した地点



調査地全景 (北東から)



第1図 調査地と周辺の遺跡



第2図 遺構平面図

【調査の概要】

縄文時代晩期の氾濫流路から、水辺を利用するための構築物である木組み遺構と木道、杭列などが見つかりました。

今回の調査で確認した氾濫流路は、検出長約42m、幅約8～11m、深さ約2.3mを測ります。洪水が治まった後は水が緩やかに流れる流路になっていたと考えられます。土層観察から、水流は南から北へ蛇行して流れていたことが分かりました。

その後、この流路は、洪水により流れてきた土砂のほか、大量の木材や葉、種子などで埋まっていました。種子はイチイガシ、ムクロジ、オニグルミやトチノキなどの堅果類、木材はカシ類などの広葉樹材が多く出土しました。これらの植物から遺跡周辺に豊かな森が形成されていたことが分かりました。

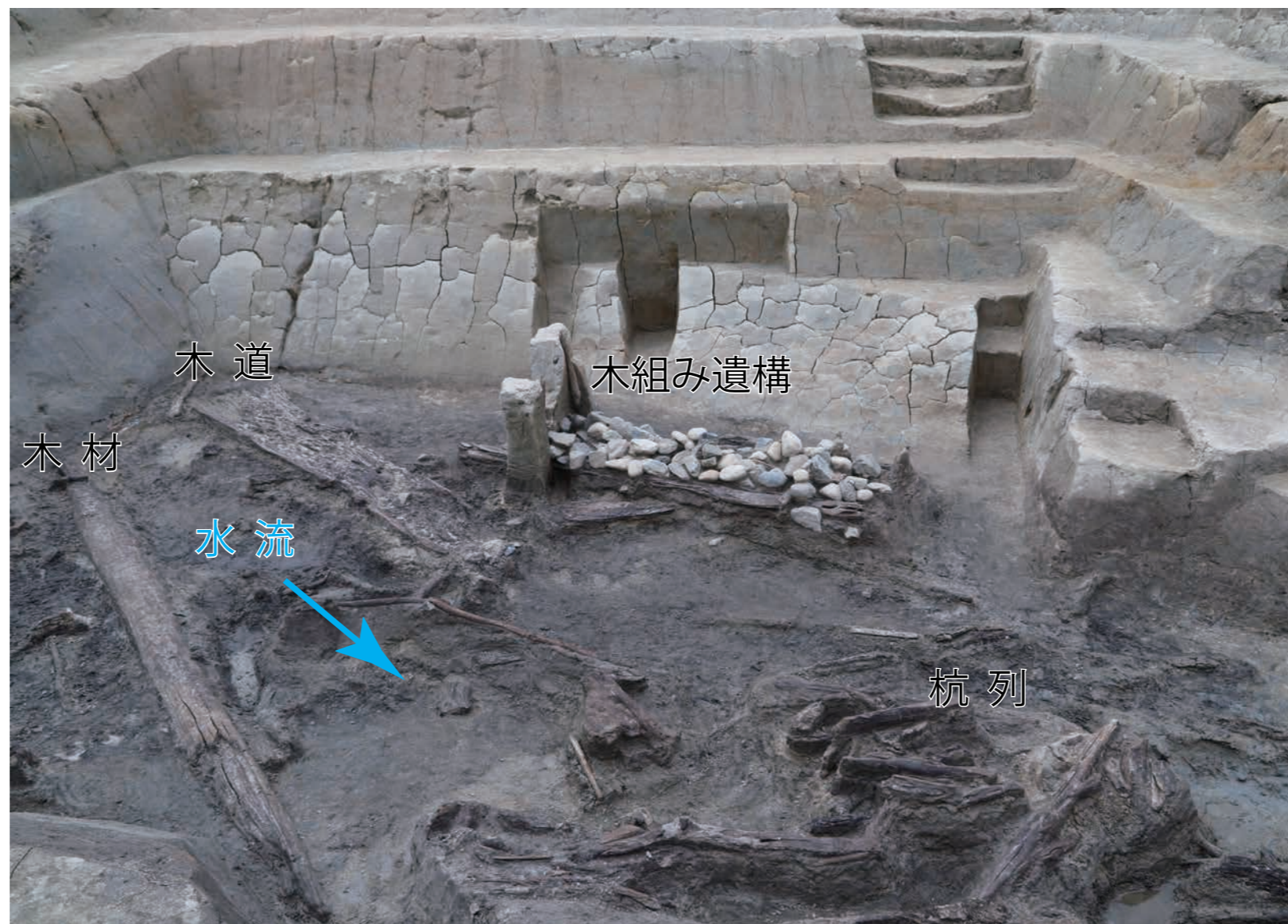


写真1 縄文時代晩期の遺構(東から)

【木組み遺構と木道、杭列】

木組み遺構は全長2.3m、幅0.7mを測ります。丸太材と割材を縦に置き、横木を渡した後、短辺に数本の杭を打ち込んで固定しています。木組みの上には径約10～20cm前後の礫を置いていました。

木道は長さ3.5m、幅0.4～0.7mを測ります。丸太材を分割して置いていました。木組み遺構へ向かう足場として使用したと考えられます。

流路の中央部分には長さ4.2m以上の木材と杭列が見つかりました。木材は木道と平行して設置されています。

これらの遺構は流路に並行して作られており、流路内の流水を利用して食材や木材を加工するためのものと考えられます。



写真2 木組み遺構検出状況(北西から)



写真3 木道検出状況(北東から)

<氾濫流路とは？>

洪水により、河川の自然堤防が壊され、洪水の流れが地表面を掘削します。この流れを氾濫流路と言います。

<木道とは？>

低湿地において、木材を加工して足場として利用した木の道です。